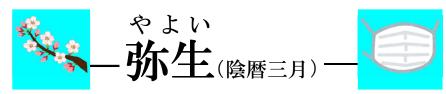
## 江戸取図書館便り 3月1号



けいちつ \* **啓蟄**(二十四節気・2023年3月6日)



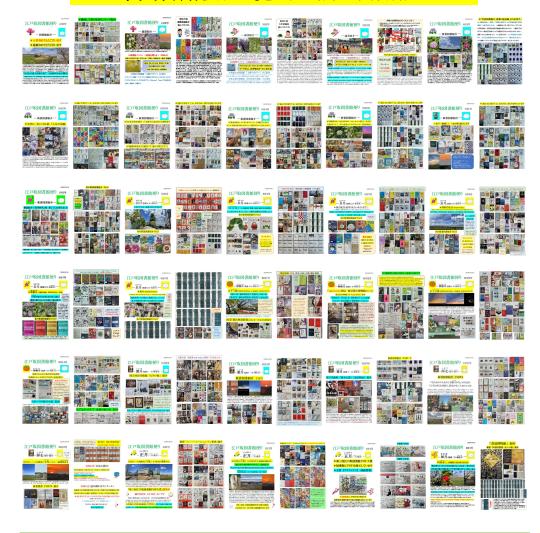
\*「すみれほどな ちいさきひとに うまれたし」 菫は、春の季語です。字余りではあります。『漱石俳句集』 坪内稔典編(岩波文庫66頁)にあります。漱石30 才頃の句で、明治30年2月に正岡子規に投句されています。写真左から、土手のスミレ?雑草のたくましさ!(2月25日16:13)。土手の辛子菜も雑草。辛子菜やローラーにもめげず咲きにけり(25日16:12)。国土交通省が、「堤防の安全を確認するために除草・維持を行っています。」 遅き梅近くに桃は見当たらず(バス停へ左折する角の梅の木3月2日10:56) この時やほほすりぬける春の風内に色づく裸枝こそ(2日10:58)(司書)



〈偉そうに言えば〉 物事にはタイミング(時)があります。できるできない(得手不得手)もあります。時といえば、(「時は金なり」ではなく)「時は今天が下知る五月かな」(明智光秀)を思い出します。でも、光秀は(本能寺の変で、織田信長を討っても、)天下は取れませんでした。

孟子曰わく、「天の時は地の利に如かず、地の利は人の和に如かず」。講談社学術文庫『孟子』 貝塚茂樹著146~149頁参照のこと。 本来の解釈は、本を読んでください。 〈右につづく〉

## 2022年図書館便り一覧(本の紹介・図書館の窓から



〈偉そうに言えば〉 私は、このことば「天の時・地の時・人の和」から、「迷ったときは、自分の思う天の時より、理論的・合理的な地の時を考えよう。ましてや、自分のことを心配してくれる親しき人たちの温かきアドバイスを大切にしよう。」と思いをふくらませてみます。このように、自分なりに「きっかけ」をみつけて、考えてみてはいかがでしょうか? そうしたら、「思い立ったが、吉日」です。 まさしく、「時は今」です。今度は、「時は金なり Time is Money! アメリカの政治家ベンジャミン・フランクリンのことば(1748年)」。 つまり、時を無駄にすることなく、行動しましょう! と考えてはいかがでしょうか。

今年も、「図書館便り(31 枚、本号を含む)」と「図書館来てね! (15 枚、次号を含む)」を発信してきました。紹介した本を手にしてくれたり、写真に感想をもらえたりしました。図書館に来てもらえるきっかけになれればと思って作りました。「本を通して、豊かな人間性を育む」これが、図書館の大きな目標です。読んでくれて、ありがとうございました。(司書 白井大治)